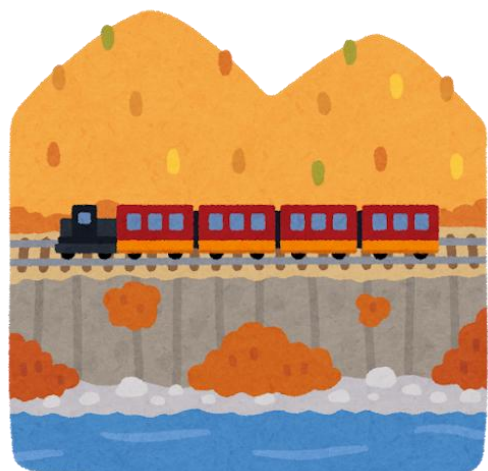


社会福祉法人 亀岡市社会福祉協議会様 研修会（令和6年11月21日）

愛知県 稲沢市における重層の取り組み

～ なぜ、社協が重層に取り組むのか？ ～



社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会
福祉総合相談窓口 相談支援包括化推進員

（個人情報保護の観点からケース概要を削除する等、内容を一部変更しております）

【別添資料】

- ① 超解説 重層的支援体制整備事業 リーフレット
- ② 居住支援法人 リーフレット
- ③ 稲沢市e nモデル（A4）

* これらの資料は、稲沢市社協のホームページからもご覧になれます！

この研修を通して考えてほしいこと

- ① そもそも、なぜ、重層に取り組むのか？
- ② 重層に取り組むと、何が、どう変わるのか？

この研修の目的は、

『重層の基礎理解』 とあなたの 『行動変容』

『知っているだけ』と『実践（行動）している』は、雲泥の差！

稲沢市の概要

愛知県の北西部 濃尾平野の中央に位置

人口：133,181人（令和6年4月1日）

高齢化率：28.2%



- 令和4年度から

『福祉の拠点』を中心に重層を展開！

(稲沢市役所東庁舎1階の総称)

- 愛知県内でも珍しい！
福祉課と社協が隣どうし！



重層に取り組んだ背景

・ 複雑・複合的な課題を抱えたケースの増加

原因別・分野別（＝縦割り）の支援体制では、対応困難

・ 第4次 地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和2年度～6年度）

基本目標『相談体制の充実』

・ ワンストップ福祉相談窓口の整備（重点施策）

福祉の拠点（令和3年4月）＝ 市役所の新庁舎



これから、ご紹介するのは 『等身大の取り組み』 です！

(注意) 先進事例では、ありません！

重層の推進で『苦勞してきたこと』、怒り心頭で『投げやりになったこと』

これからの課題等 『ありのままの姿』 を生々しくお伝えします！

『先進事例』ではなく 『等身大の取り組み』 だからこそ

皆さんのまちでも 『再現可能』

何か一つでも 『重層推進のヒント』 になれば幸いです！

これまでの研修会や視察等で頂いたご感想

- ・ 『程よい（先進的すぎない重層の）取り組み』が聞いて良かった
- ・ 実際に取り組んでいる（等身大の）社協の話が聞いて良かった
- ・ **重層は『難しい取り組みではない』ことが分かった！**
- ・ 『社協の取り組み＝重層の取り組み』・・・なるほど！
- ・ 涙が出た、勇気が出た（これまで聞いた多くの研修や講演の中で間違いなくNo.1)
- ・ 自分がやりがいを感じ、仕事を楽しむことを忘れかけていた 等

もくじ

- 1 重層の基礎理解
- 2 稲沢市の特徴
- 3 包括的支援体制の要 『稲沢市e nモデル』
- 4 具体的な取り組み方（How-to 重層）
- 5 課題への挑戦
- 6 将来を担う社協の後輩たちへ



稲沢市社会福祉協議会
マスコットキャラクター 福ちゃん

1 重層の基礎理解

重層推進は『共感と共創』が9割

- 1-1 重層的支援体制整備事業とは？
- 1-2 重層の推進とは？
- 1-3 相談支援包括化推進員の役割



1-1 重層的支援体制整備事業とは？

* 別添『超解説 重層的支援体制整備事業 リーフレット』をご覧ください！

- 『**地域共生社会の実現**』を目指す事業
- 『**主要5事業の一体的充実**』を目指す事業
(相談支援・参加支援・地域づくり・アウトリーチ・多機関協働)
- 『**現場の支援者を支援する**』ための事業
⇒多職種連携が充実すれば、支援員のバーンアウトが減る！

1-2 重層の推進とは？

みんなを巻き込んで『包括的な支援体制』を創っていく過程

【ポイント】

① 主要5事業の強化と一体的連動を意識する

特に『参加支援』と『地域づくり』の充実が重要！ 👉ここで差が出る！

② 人と人との繋がり（多職種連携）を意識する

多職種連携は『様々な関係者と苦楽を共にする支援の過程』で育まれる！

⇒ 『○○連携会議』や『各分野への通達』くらいで連携できるなら苦労しない！

1-3 相談支援包括化推進員の役割

・重層の推進役

- ①重層の目的 （なぜ、取り組むのか？） を関係者に伝え（周知啓発）
- ②関係者の内発的動機（主体性）を喚起し
- ③包括的な支援体制づくりに関係者を巻き込んでいく

重層の推進は『取り組む過程』こそが重要！

・複雑・複合ケースの支援調整役（多機関協働のマネジメント）

重層的支援体制整備事業は、

地域共生社会の実現を目指すための事業です！



地域共生社会と重層の関係性



2 稲沢市の特徴

ここからは、稲沢市の取り組みを紹介します！

重層に取り組み始めて、まだ『**3年目**』

- 2-1 稲沢市の特徴
- 2-2 重層5事業、全てに社協が携わる！
- 2-3 福祉総合相談窓口
- 2-4 『福祉の拠点』で連携を叫ぶ社協！



2-1 稲沢市の特徴

- ・ **福祉課と社協（福祉総合相談窓口）が重層の推進役**

福祉課 ⇒ 全体の統括（財源確保、庁舎内連携、後方支援 等）

社 協 ⇒ 福祉の専門職として『重層の全体構想を描く（仮説形成）』

周知啓発（研修会）、情報収集、異業種連携の呼びかけ、

『複雑・複合ケースの支援調整（多機関協働のマネジメント）』

社会資源（居住支援や恩送り隊 等）の開発 等

- ・ 『生活困窮者支援をベース（土台）』に重層を展開

2-2 重層5事業、全てに社協が携わる！

①誰一人取り残さない相談支援事業（包括的相談支援事業）

基幹包括（3名）、基幹相談（2名）、福祉総合相談窓口（8名）、成年後見（2名）

②参加支援事業

福祉総合相談窓口（居住支援・就労準備支援事業等）、CSW = 生活支援コーディネーター（居場所づくり）

③地域づくりに向けた支援事業

CSW（コミュニティソーシャルワーカー） = 生活支援コーディネーター（5名）

④多機関協働事業

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員 = 重層の推進役）

⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

福祉総合相談窓口（従来のアウトリーチ）、CSW（早期発見型のアウトリーチ）👉地域に潜在するニーズをキャッチ！

2-3 福祉総合相談窓口

①生活困窮者自立支援事業（平成27年度から受託）

家計改善支援事業、就労準備支援事業、子どもの学習支援事業

②多機関協働事業（令和3年度から受託）

アウトリーチ事業、参加支援事業、ひきこもり支援事業、LINE相談事業

③居住支援事業（令和4年3月 居住支援法人格を取得）社協の独自事業！

* 別添『居住支援法人リーフレット』をご覧ください！

⇒ 『住まい支援システム』と『稲沢市e nモデル』の融合を模索中・・・

2-4 『福祉の拠点』で連携を叫ぶ社協！

重層の推進とは『主要5事業の強化と一体的連動』

⇒ 社協の各部門がハブとなって重層を推進



主要5事業に携わる、高齢や障がい、後見、地域福祉等
社協の各部門が起点となってネットワークを広げます！

『福祉の拠点（市役所）』が重層の起点！

重層の充実は

担当者間の連携濃度（コミュニケーションの総量） に比例する！

稲沢市は、福祉課と社協（福祉総合相談窓口）
二人三脚で重層を推進しています！

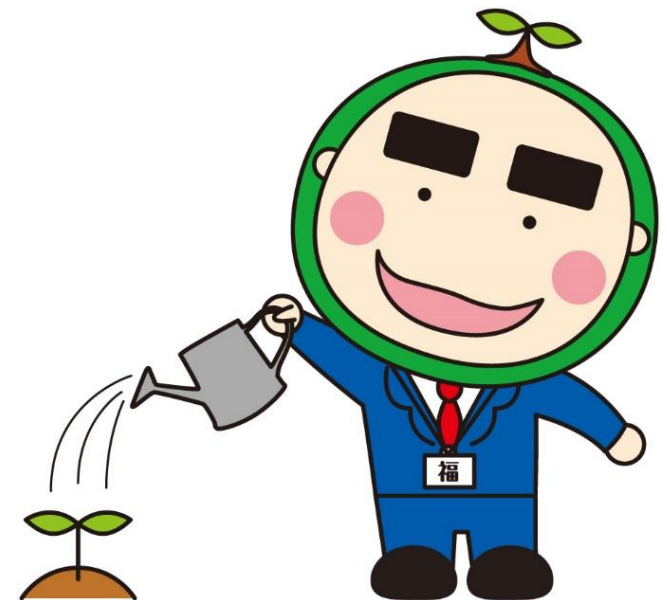
私たちは、ほぼ毎日『対話（雑談）』しています！



3 包括的支援体制の要 『稲沢市 e n モデル』

- 3-1 『稲沢市 e n モデル』とは？
- 3-2 3段階の会議で練り上げる！
- 3-3 『参加支援の充実』が一番難しい！
- 3-4 『地域づくり』の取り組み

みんなの 『縁』 を育てています！



3-1 『稲沢市 e n モデル』とは？

多職種連携のフロー図

複雑・複合課題の相談受付から支援開始までを『見える化』したものの

* 稲沢市 e n モデル (A4) をご覧ください！

【特徴1】 『支援者を支援するための仕組み』 👉 超意識してます！

【特徴2】 『3段階のケース検討会議』で支援方針をブラッシュアップ！

【特徴3】 全分野統一のインタビュー様式で『家族全体の支援方針』を検討

3-2 3段階の会議で練り上げる！

メンバーの視点は『家族の全体最適』と『チーム支援の強化』

step①ブラッシュアップ会議

社協の専門職によるケース検討会議（新人相談員のOJT・SV機能を兼ねる）

step②福祉総合相談対策支援チーム会議（『支援会議』）

市役所の専門職を含めたケース検討会議（関係機関の参加も可）

step③重層的支援会議（生活困窮者自立支援調整会議）

現場レベルで検討した支援方針や役割分担等を決定する会議

対策支援チーム会議（令和6年1月17日）の様子



京都府の皆様が見学（視察）されました！

この日は、複雑・複合的な課題を抱えたケースの数が多く（10ケース）、児相や乳児院、相談支援事業所、社会福祉法人等の方々にも参加いただき『世帯の最善』に向けた『熱い議論』を交わしました！

3 段階の会議では『ケース検討』を通して
『連携の課題共有』や『稲沢市e nモデルの改善』
稲沢市に不足する『社会資源の開発』
なども検討（協議）しています！

（令和5年度 参加支援として『恩送り隊』を開発しました！）



3-3 『参加支援の充実』が一番難しい！

～ 『個別支援』と『地域支援』の架け橋づくり～



参加支援事業とは『既存の仕組みでは対応できないニーズ』に対応するため、社会資源を活用し、社会との繋がり創りに向けた支援を行う事業

既存の社会資源とのマッチングや

『ニーズに合った新しい支援メニューを創る事業』


***オープンイノベーション**

(=社会資源開発) * 組織内外の知識や知恵を組み合わせることで付加価値を創造すること

参加支援充実（社会資源開発）の公式

$$\underline{A \times B \times C = 『恩送り隊』}$$

恩送り隊（無償の支援活動）は、若き経営者の『熱い思い』から生まれた！

- A** 既存の仕組みでは、解決できない 『ニーズ（困りごと）』
（生活困窮世帯の①ゴミ屋敷片づけ、②草木の伐採、③引越しの手伝い 等）
- B** 社協職員の 『情熱と創造力』  ここが『0』だと…
- C** 稲沢市民の 『地域貢献への思い』

参加支援事業を通して

『恩送り（* Pay it forward）の文化』を

広めていきたい！

* 自分が受けた善意を他の誰かに渡すことで、善意をその先に繋いでいくこと

いつか元気になったら、**今度は、あなたが、誰かを支えてあげてください** 参加支援の開発『稲沢市恩送り隊』～『ハイフォワード』の仕組み創り～

地域で助け合い「恩送り活動」



稲沢の若手経営者ら 清掃など支援届かない人に

困っている人と助けたい人 マッチング

稲沢市内の若手経営者らが、生活困窮世帯の困り事を解決する仕組みづくりに挑戦している。その名は「恩送り活動」。市社会福祉協議会の協力を得て、支援が届かないことで悩む市民と、地域貢献をしたい人々をマッチング。「支援を受けた人が元気になったら、いつか別の人を助ける。そんな良い縁をつなぎたい」と意気込む。(寺田結)

六月末、市内のある二戸建て住宅にメンバー三人が集まった。庭の草木が生い茂り、周囲の家や駐車場、通学路に飛び出して、通行を妨げている。三人は住人と相談して、清掃を開始。持ち込んだ機械を使って一気に片付けた。

この家住むのは、ひきこもりの男性一人。処理するべきとは分かっていたが、近所の目が気になって外に出られず、放置せざるを得なかった。しかし、自治体の制度では現状に対処できないのが現状だ。

そこで手を挙げたのが、市内でエスエム遺品整理の事業を営む山下雄基さん(三三)＝同市平和町。昨年秋、地域貢献ができないかと市社会福祉協議会に相談

庭生い茂った草木を片付ける「恩送り活動」のメンバー(稲沢市内)

福祉新聞→

令和5年7月25日

←中日新聞

令和5年7月11日

(本会のホームページに掲載)



困窮者宅の庭の雑木を伐採する恩送り隊

稲沢市社協 恩送り隊が始動 次の困窮者につなぐ

愛知県の稲沢市社会福祉協議会は、困窮者協会の恩送り隊の活動を支援の一環として6月に「恩送り(ハイフォワード)隊」の活動を始めた。ハイフォワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返

が市から受託している重層的支援体制整備事業の中の参加支援事業として取り組む。困窮者(企業や社会福祉法人など)を募集し、同社協の福祉総合相談窓口で支援が必要と判断された困窮者(引きこもりの人やヤングケアラーなど)に対し、庭の雑木の伐採、ゴミ屋敷の清掃、フードドライブ、居場所づくり、就労体験受け入れなど恩送り隊は、同社協

か元気になったらできる範囲で誰かを支え、輪を広げていく。エドゥルケウスとして一人暮らしで精神障害と自内傷を患っている60代の男性宅や、70代の父と30代の引きこもりの娘の自宅など、3軒の庭の雑木を伐採した。作業は商工会議所の有志が行った。

同社協はまずはモデルケースを示し、市民にハイフォワードの意義や効果を広めていく。加藤泰章・同社協相談支援包括化推進員は「活動を見える化してボランティアが集まれば拠点を増やしていきたい」と意欲を語っている。(覆戸新)

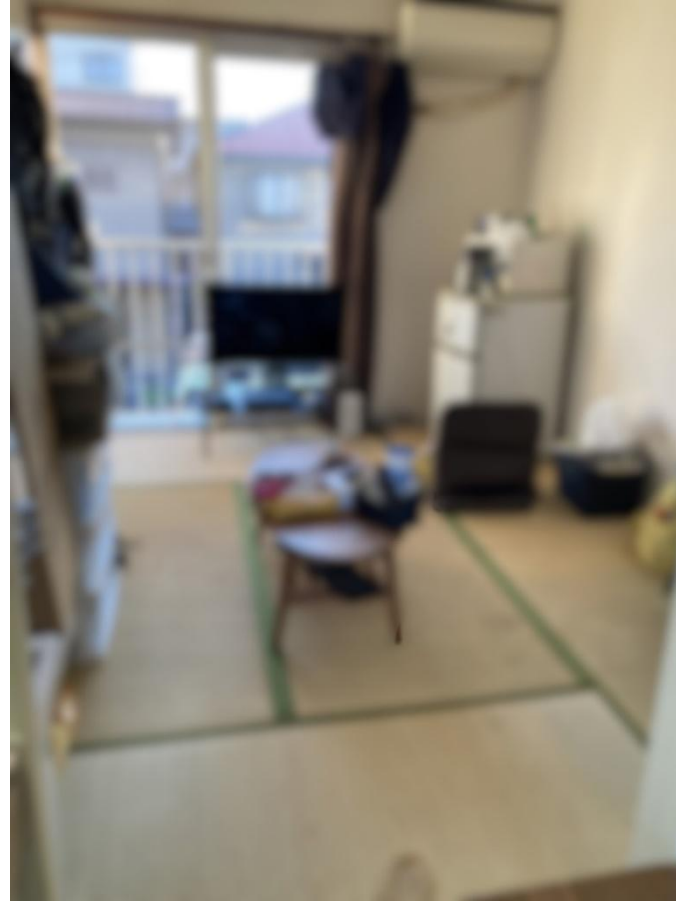
恩送り隊の活動

(令和6年5月 単身男性)

活動前



活動後



【お礼】

思っていたよりも綺麗になり、とても気持ちよく過ごせるようになりました。(40代男性)

【恩送り隊の感想】

今回も困っている方のお役に立てることができました。家主と一緒に片づけを行い、最後に笑顔でお礼を頂けたことがこれからの励みになりました。(隊長の山下氏)

ちなみに

『居住支援』 も『たった一人の狂気的情熱』から

4年越しで立ち上げた『参加支援事業』の1つです！

(詳しくは、NORMA社協情報 2024年10・11月号 をご覧ください！)

社会資源開発には『狂気的情熱』が必要！



3-4 『地域づくり』の取り組み

- **SC (CSW) 5名配置** * SC (生活支援コーディネーター) = CSW (コミュニティソーシャルワーカー)
第1層SC = 1名 第2層SC = 4名
- **第1層SCの主な役割 (市全域)**
第2層SCの後方支援 (指導・育成含む)、社会福祉法人連携の強化 他
- **第2層SCの主な役割 (支所・市民センター圏域)**
協議体の運営、居場所づくり、CSW活動 他

重層推進におけるS C（CSW）の役割

- 『相談支援』と『地域づくり』の橋渡し役

個別ケースから社会資源開発や地域づくりに繋げる役割

⇒ S Cは『重層のケース検討3会議』全てに参加しています！

- CSW（早期発見型のアウトリーチ含む）としての役割

民生委員や町内会、協議体等、地域との強い繋がりを活かし、支援が必要な方を早期に発見し、適切な相談支援事業に繋がります！

このように 稲沢市は、これまで取り組んできた（築いてきた）

『社協の強み』を活かした重層を展開しています！

重層は、市町村の『創意工夫』で取り組むもの

だから 『1700通りの形』があっていいんです！

4 具体的な取り組み方（How-to 重層）

【注意】 私どもが実践してきた取り組み方の紹介です（参考程度）



- **重層推進は、たったの3手順でOK！**

Step①内発的動機付けと基礎理解の徹底

Step②情報収集（TTPA）と内情把握

Step③仮説形成と仮説検証

重層推進は、たったの3手順でOK！



Step③仮説形成と仮説検証

Step②情報収集（TTPA）と内情把握

Step①内発的動機付けと基礎理解の徹底

まず、最初にすべきことは

重層推進の『主担当者を明確』にすること

明確な『自覚』と『旗振り役』が必要です！

Step① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

- ・ **まず、担当者自身の『内発的動機（主体性）』を高める！**

重層推進担当には『自ら考え、行動し続ける力』が必要！

↑このスキルを持つ職員の有無が重層推進の明暗を分けます！

- ・ **重層の基礎理解を徹底する**  『意識が高い』だけではダメ！

『制度』 『先進事例』 『我がまちの状況』 の3つを理解する！

『理解した』とは『自分の言葉で中学生に説明できる』状態

基礎理解に最適！ ⇒ 『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

Step② 情報収集（TTPA）と内情把握

- ・ 先進地を視察してTTPA 『A』（様々な『重層の形』を知ろう）

重層推進のセオリーは、ゼロからイチを生み出すのではなく

先進地の取り組みを徹底的にパクって、我がまちの形に『アレンジ』する！

【注意】丸パクリは機能しません！なぜか？地域特性（社会資源）が違うから！

* 先進地視察は『担当者との繋がりこそが大きな財産』

- ・ 我がまち（地域特性や社会資源等）の把握 （内側の把握）

これを知らずして『理想の支援体制』を描くことは、できません！

重層推進のヒント『灯台もと暗し』

内側の把握 = 既存事業・社会資源の棚卸（再確認）

棚卸ができれば、

重層の主要5事業に既存事業を落とし込んでみよう！

（相談支援・参加支援・地域づくり・アウトリーチ・多機関協働）

意外と個々の事業は『できている』ことに気づくはず！

問題は『参加支援がないこと』と『主要5事業間の連動』では？

Step③ 仮説形成と仮説検証

- ・ 仮説形成（ビジョンを『見える化』させる）

厚労省の思い、社会資源、地域特性、強み、先進事例等を総合的に勘案し

我がまちに適した理想の支援体制を『見える化』させる！👉ここ重要

⇒稲沢市の場合は『稲沢市e nモデル』と『重層リーフレットの内側の図』

【注意】具現化したビジョンがないと試行錯誤すらできません！

- ・ 仮説検証（試行錯誤と活動評価）

みんなを巻き込んで試行錯誤する『過程』こそが『重層推進』そのもの！

ビジョン（理想の支援体制）を描く際のポイント

- ①既存事業 （我がまちの強み） を活かしているか？
- ②重層の 主要5事業が連動して いるか？
- ③先進地の取り組みを パクって いるか？
- ④紙1枚で相関図 （見える化） として描けるか？

『理想の支援体制（ビジョン）』を描いたら

後は、みんなを巻き込んで（周知啓発）

トライ&エラー（実践と検証）を繰り返すだけ！

重層に取り組むと何が変わるのか？

重層（多職種連携）が充実すると

『複雑・複合課題に柔軟に対応できるようになる』だけではなく

- ① 支援者の抱え込みやバーンアウトが減る（みんなで支えあう）
- ② 職場内外を含め横の繋がりが強化される（仕事が円滑になる）

つまりは、仕事が充実する！

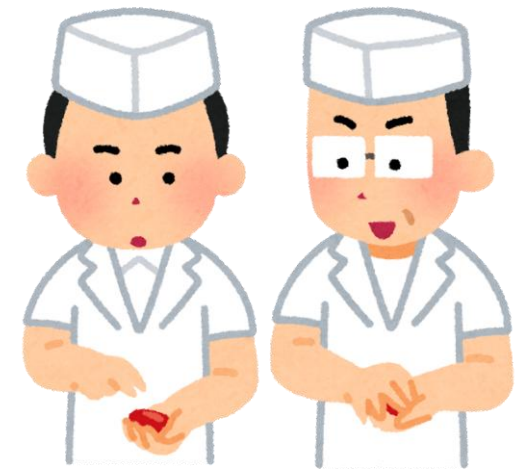
重層の充実で変わるのとは『あなた自身の仕事への向き合い方』なのかも？

今の仕事は、楽しいですか？（もし、楽しくないなら、それは、なぜですか？）

5 課題への挑戦

ベテランのスキル（支援の感性・機微＝暗黙知）を
如何にして、次の世代へ伝えていくか・・・

- 5-1 2年間で見えてきた課題
- 5-2 『人財育成』への挑戦
- 5-3 『腹落ち⇒我が事⇒協働』への挑戦
- 5-4 『活動評価』への挑戦



5-1 2年間で見えてきた課題

課題①『人財育成』

ベテランのスキルや感性を如何にして次の世代に伝えていくか？

課題②『当事者意識の欠如（周知啓発不足）』

まだまだ『他人事』（私、重層担当じゃないので・・・）

如何にして支援体制づくりに我が事として巻き込んでいくか？

課題③『重層推進の活動評価』

重層推進は、数字の大小で評価できない！

連携や地域づくり等『見えないもの』をどう評価するか？



5-2 『人財育成』 への挑戦

- ・ 組織の枠を超えた『人財育成』の場を創る！

『SECI（セキ）モデル』を取り入れ、組織の枠を超えた人財育成の『場（対策支援チーム会議を想定）』を創りたい！

複雑・複合課題を検討する中で『ベテランのスキルと感性（暗黙知）を次世代の支援者に伝えていく』ことができれば、稲沢市の包括的な支援体制は、益々強固なものとなるはず

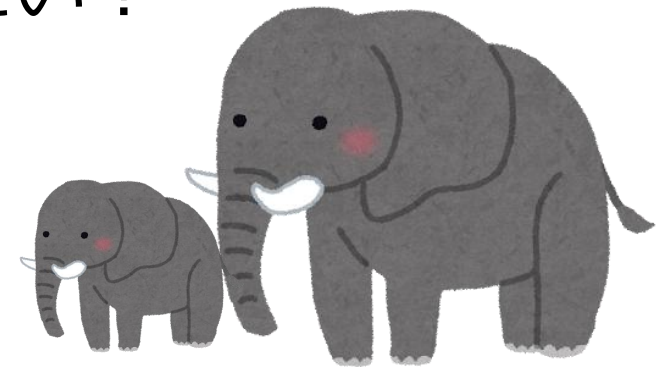
5-3 『腹落ち⇒我が事⇒協働』 への挑戦

- ・ どう働きかければ、人は動くのか？（永遠の課題）

『ナッジ理論』を取り入れて、重層の意義をシンプルに分かりやすく伝えていきたい！ （関係者の腹落ち）

気づいたら、『我が事』として包括的な支援体制づくりに『参加（協働）』している仕掛けを創りたい！

人を巻き込む（動かす）ヒントは、行動経済学にあり！？



語句の説明

【S E C I モデル】 *ナレッジマネジメントの基礎理論

個人が蓄積した知識や経験（暗黙知）を組織全体で共有して形式知化し、新たな発見を得るための知識創造プロセス

【ナッジ理論】 *行動経済学の理論の一つ

「人々が強制的にではなく、よりよい選択を自発的に取れるようにする方法」を生み出すための理論

5-4 『活動評価』への挑戦

- ・ 評価なくして、改善なし！

目下、重層的支援体制整備事業の評価指標の一つ

『A + B + Cモデル』を勉強中！

書籍『重層的支援体制整備事業における評価活動のすすめ』を何度も読み直していますが、未だに理解できません！（誰か教えて・・・）



6 最後のテーマ

『 将来を担う社協の後輩たちへ 』

～ 社協らしく、自分の殻を突き破って突き進め！ ～

他の社会福祉法人やNPOが台頭（活躍）する中

私たち社協が

『地域福祉の中で存在感を示していく』ためには、

どうしたらいいのか？

6-1 重層は社協そのもの！

・重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

↑研修全体を通して『最も伝えたい』こと！

重層は、これまで積み上げてきた『**社協事業の延長線上**』にある！
相談支援、ネットワークづくり、アウトリーチ、権利擁護、特に『地域づくり』

全部『社協の得意分野じゃないか！』

6-2 せめて、社協らしく



- ・ 社協なら『失敗を恐れるな！』

真剣に考えて、チャレンジした結果に『失敗』なんてものはない！

本当の失敗は『何もしない』こと！

- ・ 社協なら『現状の壁（閉塞感）をぶっ壊して突き進め！』

『行政の役割が明記』された今、『現状維持』では、もう、生き残れない！

* 社会福祉法第6条（包括的な支援体制づくりにおける、社協の立ち位置は？）

簡単に諦めるな！

(『できない理由』を自分で作って、妙に納得するな！)

社協なら 『失敗を恐れるな！』

そろそろ、目を覚まして、動き出せ！！！！

社協に蔓延する 『根拠のない安心感』 をぶっ壊せ！
(現状維持バイアス)

今の社協に足りないのは 『危機感』 だ！

6-3 断じて行えば、鬼神もこれを避く！

- ・ **必要なマインドは『百折不撓の精神』と『楽観力』**

重層の周知啓発、多職種連携の強化、居住支援の充実、人財育成・・・

『できていること』よりも『できていないこと』のほうが圧倒的に多い！

それでも・・・私たちは、全ての壁をぶっ壊して『必ず』やり遂げる！

- ・ 『怒り』を『原動力』に変えて突き進め！

やってきて分かった！

私たちの原動力は『激しい怒り』だった！



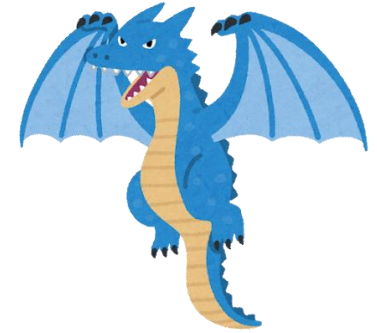
みんなで、

『社協の底力』 を見せつけてやろう！

まとめ

- ・ 重層推進とは、みんなを巻き込んで包括的な支援体制を創っていくこと
- ・ 重層推進は『取り組む過程』こそが重要！（行動を共にする＝連携強化）
- ・ 重層充実（担当者間の連携（コミュニケーション）の総量』に比例する！
- ・ 重層充実（社会資源開発）には、社協職員の『狂気的情熱』が必要！
- ・ 重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

おまけ 『遊ぶように働く！』



・ 『仕事 = 遊び (リアルRPG)』

私は、異動するたびに『自分だけの困難な裏目標 (ビジョン) を設定』し、仲間と共に困難を乗り越え、成長し、目標達成する過程を楽しんでいます！

時々、イベントとして突発性難聴や逆流性食道炎、原因不明の咳等に見舞われることも…
『仕事 = 遊び』とは『手を抜く』ということではなく『夢中になる』ということです！

最高の仲間と『仕事を楽しめる』⇒『こんなに嬉しいことはない！』

頼りない私をいつも支えてくれる福祉総合相談窓口のメンバーに感謝！

自分で選んだ仕事なら、楽しんだもん勝ちだ！

ありがとうございました！